

委員会の役割と依頼事項

浪江町復興検討委員会 第1回補足資料

委員会の役割とお願いしたいこと

- ▶ 重いテーマですが過度な負担感はお持ちにならないで結構です。
- ▶ 責任の所在は町長であり、それを支える役場です。
- ▶ 今の暮らしを支え、今後の復旧・復興を実現していくにあたり、町全体として、どのようなことを考え、行うべきかについて、ご意見をください。
- ▶ できれば、自分(たち)として何ができるかも考えてください。
- ▶ アンケートや懇談会などで意見は把握していきませんが、このような場で議論を深めていくことが必要です。
- ▶ それらの意見、そしてアンケート等を踏まえて町では策定を行っていきます。

委員会を支える体制について

外側から支えるもの：「復興有識者会議」

- ▶ 専門的な観点から、まちをどうしていくべきかの助言を頂く機会をつくっていきます。
- ▶ 今回参画頂く、委員の方々を中核に、各分野の専門家、行政職員に加わって頂きます。

内部から支えるもの：有識者委員、国県委員

- ▶ 専門的な観点、それぞれの業務に関連する視点から検討に参画していきます。
- ▶ 国、県の方が直接参画するのは、ほぼ初めてです。分野の専門家の一人として、助言を求めてください。

委員会審議のためのお願い

1. 時間の平等にご配慮ください

- ▶ 30名のため一人10分話せば、計5時間となります。
- ▶ 部会に分け、意見発表や交換の時間を確保していきます。
- ▶ 部会でも時間の制約がありますので、各委員の「時間の平等」についても尊重してください。

2. 意見の尊重、個人の尊重にご配慮ください

- ▶ 問題は複雑かつ多様です。すべての意見は尊重される必要があります。
- ▶ 発言される際には「何を伝えたいか」を意識して
- ▶ その中で、共有できることも多くあろうかと思えます。

復興理念の検討にあたって

検討の視座

理念の検討方向について

〔町民の方々の声〕

- ・浪江町での暮らしに戻りたい
- ・今の状態では戻れない
- ・今後も戻れるようにならないのではないか
- ・一刻も早く戻りたい 自分は戻る
- ・原発の事故の収束は厳しいのではないか

〔現在置かれた状況〕

- ・現段階では「確固」たる情報がない
- ・それぞれが信頼する情報で判断をせざるを得ない状況
- ・また、情報がなく十分な判断ができない状況

多くの方々の願い

- 「帰る」「帰らない」という2種類の人がいるのではなく、
- 現段階の判断や評価が分かれている

- ①〔自分のところなら〕 戻れるのではないかと
- ②〔現情報では〕 戻ることは難しいのではないかと
- ③〔今は厳しいが〕 戻れるようになるのではないかと
- ④〔現段階では〕 なんとも判断しがたい

→多くの方々が思っていること。

「できることならもとの幸せな暮らしを取り戻したい」

※「できることなら」に今回の災害のつらさがあります。

庁内WGで検討したポイント

- ▶ すべての町民を大切にしたい。
- ▶ 住む場所だけを議論すると、「人」「町民」が置き去りになってしまう。
- ▶ 戻りたいと願う方々に応えていくことは当然必要
- ▶ その上で、戻るのは難しいのではないかと考えている方々も同様に大切な方々
- ▶ 皆に共通するのは何か。
→ 私たちのふるさとへの想い。幸せな暮らしへの願い。

ふるさと なみえ への想い

「ふるさと なみえ」の再生

- ▶ 戻ろうと考えている人、戻るのは難しいと考えている人、いずれにとっても「ふるさと なみえ」を復旧・復興させていくことが必要ではないか。

「幸せな暮らし」の再生

- ▶ すべての町民が「幸せな暮らし」を再び感じられるようにするには、浪江町という場所だけでなく、避難されている方々の暮らしに目を向けていくことが必要なのではないか。

→「ふるさと なみえ」と「浪江町民」が大切

「元の幸せな暮らし」を思い出してみる

- ▶ 健康不安、事故の不安を意識せずに済んだ暮らし
 - ▶ 温暖な気候に包まれた暮らし
 - ▶ 慣れ親しんだ多くの親戚や知人に囲まれた暮らし
 - ▶ 行政区や小学校単位での地域の暮らし
 - ▶ 十日市、裸参り、安波祭、各地域での盆踊り、神楽、スポーツ大会といった親しんだ祭り
 - ▶ 意識しなかった「浪江の味」(焼きそば、刺身、丼もの、寿)
 - ▶ 温暖な気候での農作業、漁業
 - ▶ 慣れ親しんだお客さんを相手にした商売
 - ▶ 地域住民として肩身の狭さを感じない暮らし
- 当時は足りないものばかりと思っていた暮らしも、今思えば、豊かな暮らしでした。

取り戻していくことが必要なもの

1. 最低限であり確実に必要な条件

- ▶ 安全が保障され、それぞれが安心できる暮らし

2. それがないければ十分とは言えない条件

- ▶ 皆で共有する日々の暮らし
- ▶ 温暖な気候
- ▶ 先祖から伝わる伝統文化、生活文化
- ▶ 地域における生業(なりわい)
- ▶ 身近な関係をつなげる行事、地域活動
- ▶ 肩身の狭くない暮らし

結びに

- ▶ 多くの課題、複雑な課題がありますが、
 - ▶ この時代に関わっているすべての人の力を結集し、
 - ▶ この困難を解決して参りましょう。
-
- ▶ すべては浪江町民のために。
 - ▶ 浪江町民の幸せのために。